

1 沿革

年月	事項	年月	事項
大正 8 (1919)	12 開港 60 年・自治制 30 周年記念事業として図書館の建設を計画。	昭和 62 (1987)	5 「横浜市中央図書館基本構想委員会報告書」提出される。
10 (1921)	6 横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始（横浜市図書館の創立）。	10	神奈川図書館開館。
12 (1923)	9 関東大震災により、建物と蔵書を焼失。	11	各図書館報を統合し、『横浜市立図書館報横浜』創刊。「文化の日」開館開始。
昭和 2 (1927)	7 旧老松小学校跡に横浜市図書館が竣工。	平成 元 (1989)	2 泉図書館開館。
20 (1945)	3 横浜連隊区司令部の接收により、戸部小学校に移転。	3	栄図書館開館。
	5 横浜大空襲。	5	中図書館開館。「こどもの日」開館開始。
22 (1947)	8 移転先より復歸。	2 (1990)	3 横浜市図書館仮設館開館。
29 (1954)	10 団体貸出事業開始。	9	中央図書館建設工事開始。
32 (1957)	3 『郷土よこはま』創刊。	3 (1991)	4 神奈川県図書館情報ネットワークシステム（KL-NET）に加入。
34 (1959)	1 国立国会図書館と相互貸借を開始。		バンクーバー公共図書館と図書交換開始。
45 (1970)	8 移動図書館「はまかぜ 1 号・2 号」による巡回貸出開始。	4 (1992)	12 南図書館開館。
49 (1974)	10 磯子図書館開館。	6 (1994)	1 各図書館で「横浜市立図書館情報システム」による窓口業務開始。
52 (1977)	4 山内図書館開館。	2	中央図書館開館。
53 (1978)	11 戸塚図書館開館。横浜で初めて貸出にコンピュータ方式採用。	4	「横浜市立図書館情報システム」全面稼動。
54 (1979)	5 戸塚図書館を皮切りに視覚障害者サービスを開始。	12	「ゆめはま 2010 プラン」基本計画策定。
55 (1980)	1 鶴見図書館開館。	7 (1995)	4 都筑図書館開館。
	5 金沢図書館開館。	5	緑図書館開館。
	7 『図書館報よこはま』創刊。	8 (1996)	1 中央図書館、来館困難な障害者に対する郵送貸出サービス開始。
	8 港北図書館開館。	4	「横浜市立図書館所蔵資料検索ネットワーク」稼動。
	9 中国・上海図書館と図書交換開始。	5	中央図書館、CD-ROM 検索サービス開始。
56 (1981)	1 中国・遼寧省図書館と図書交換開始。	10 (1998)	3 図書館ホームページを開設、インターネットによる蔵書検索サービス開始。
	10 横浜市図書館創立 60 周年記念講演会・パネル展開催。	11 (1999)	5 「庁内情報拠点化事業」開始。
	12 「よこはま 21 世紀プラン」策定、一区一館建設及び中央図書館建設方針を確立。	11	磯子図書館、磯子区総合庁舎内に移転開館。
57 (1982)	5 保土ヶ谷図書館開館。	12 (2000)	4 市立図書館全館で祝日開館等年間 30 日の開館日拡大。中央図書館の平日の開館時間を午後 8 時 30 分まで延長。
58 (1983)	2 戸塚図書館を皮切りに、地域図書館における団体貸出開始。	13 (2001)	12 市立図書館全館で月曜日を閉館。
60 (1985)	1 瀬谷図書館開館。	15 (2003)	1 「横浜市立図書館情報システム」を更新。
61 (1986)	5 旭図書館開館。	16 (2004)	3 蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次や要旨、内容紹介等の情報を追加。同時に、これらの情報からの資料の検索も可能に。
62 (1987)	1 港南図書館開館。		
	4 地域図書館の火曜日から木曜日の閉館時間を午後 5 時から午後 7 時に変更。		